



はいたい。12月に入り、街中で華やかなイルミネーションが見られ、年の瀬を感じる時期となりました。皆さま、元気にお過ごしでしょうか。

12月1日は「映画の日」です。

1896年(明治29年)11月25日～12月1日、エジソンが発明したキネトスコープ(映写機)が、初めて神戸で輸入上映され、この年から数えて60年目にあたる1956年(昭和31年)に、一般社団法人映画産業団体連合会が12月1日を「映画の日」と定め、日本における映画産業発祥(日本で初めての有料公開)を記念する日としました。

まず、「映画の日」にちなんで、「歴代映画興行収入ランキング(表1)」をみてみましょう。

今年10月16日に公開され、話題となっている映画

「劇場版『鬼滅の刃』無限列車編」は、12月15日現在時点で興行収入が302.9億円となり、「タイタニック」(262.0億円)をおさえ、第2位にランクインしています。また、歴代1位の「千と千尋の神隠し」(316.8億円)に迫る勢いです。「鬼滅の刃」ブーム、どこまで続くか楽しみですな!

順位	作品タイトル	配給会社	興行収入(億円)	公開日	邦画
1	千と千尋の神隠し	東宝	316.8	2001年7月20日	*
2	劇場版『鬼滅の刃』無限列車編	東宝/アニメックス	302.9	2020年10月16日	*
3	タイタニック	FOX	262.0	1997年12月20日	
4	アナと雪の女王	ディズニー	255.0	2014年3月14日	
5	君の名は。	東宝	250.3	2016年8月26日	*

1年間に映画を観に行く頻度	単位:千人		
	平成18年	平成23年	平成28年
1～4日	25,232	25,307	29,674
5～9日	9,180	8,397	8,511
月に1日	5,378	3,997	4,650
月に2～3日	1,353	927	974
週に1日	434	392	227
週に2～3日	158	181	91
週に4日以上	96	104	26
総数	42,341	39,990	44,833

次に、1年間に映画を観に行く頻度の比較(テレビ・DVDなどは除く)について「社会生活基本調査(総務省統計局)」の結果(平成18年、23年及び28年)をみてみましょう(表2)。

平成28年のデータについて、平成18年、23年の過去のデータと比較すると、総数は過去最高の値となっていますが、「週に1日」「週に2～3日」「週に4日以上」は最低値となっています。この表からは、映画を観に行った人の総数は増加傾向にありますが、週に1日以上、「よく映画を観る人」は減少傾向にあることが分かります。

映画館での映画鑑賞			映画館以外(テレビ・DVD等)での映画鑑賞		
順位	地域別	%	順位	地域別	%
	全国	39.6		全国	52.1
1	東京都	49.7	1	東京都	61.7
2	神奈川県	47.4	2	神奈川県	58.4
3	千葉県	45.1	3	千葉県	57.9
23	沖縄県	36.2	14	沖縄県	49.8

また、映画を映画館で鑑賞するだけでなく、映画館以外(テレビ・DVD等)で観る方もたくさんいらっしゃると思います。

最後に、映画館または映画館以外(テレビ・DVD等)で鑑賞するかを比較した行動者率(表3)及び平均行動日数(表4)をご覧ください。(総務省統計局 平成28年社会生活基本調査)

映画館での映画鑑賞			映画館以外(テレビ・DVD等)での映画鑑賞		
順位	地域別	日	順位	地域別	日
	全国	6.0		全国	40.0
1	大阪府	7.1	1	青森県	51.6
2	東京都	6.6	2	高知県	49.9
2	京都府	6.6	3	徳島県	49.0
25	沖縄県	5.6	23	沖縄県	42.7

「行動者率」では、映画館での鑑賞、映画館以外の鑑賞、ともに関東地域が上位を占めています。

一方「平均行動日数」では、映画館での鑑賞は、関東地域及び近畿地域が上位をしていますが、映画館以外での鑑賞では、青森県、高知県、徳島県が上位にランクインしているのが特徴的です。

表3～4 総務省統計局「平成28年社会生活基本調査」より

沖縄県は、「平均行動日数」のうち、映画館以外で鑑賞する場合の値(42.7日)が全国値(40.0日)を上回っていますが、それ以外の項目では、全国値を下回っており、他の都道府県と比べ、自由時間の中で映画鑑賞に特段、時間を費やしているということではないようです。

映画館の迫力ある大画面・大音量で観るのもよし、家族団らんのひとときを過ごしながらかテレビ・DVDなどで観るのもよし、好きな映画を思う存分楽しみたいですね。